

## 2 各視点にもとづく実践内容

これから述べる事例は、「個を生かす学年・学級経営アイディア集」の有効性を検証するため研究協力校（小・中・高校3校）にお願いし、実践してもらったものである。

視点1 個の存在を認め、個の存在を大切に  
する内容・方法を明確にすること

### 事例1 自己理解、相互理解を深める学年・学級経営

（「個性発見カード」の活用をとおして）  
中学校 第2学年

#### (1) 視点とのかかわり

本事例は、視点1を中心にして、学年会で「個」の把握のための共通理解を図るとともに、生徒に対しては「個性発見カード」を活用し、自己理解や相互理解を深めさせたものである。

手だてとして特に、視点1の下記「そこで」を実践した。

そこで

- 現職教育、学年会等で個の把握の仕方を研修し、今年度は「いつ、どんな方法」で実施するかを確認する。
- 「個性発見カード」を活用して、自己理解や相互理解を深めさせる。

#### (2) 実践内容

##### ① 学年会での話し合い

本校は大規模校であり、1学年9学級を擁し学年会に所属する職員も13名いる。

そこで、学年会を定期的開催し、「個」の把握の仕方についての研修を行い、その中で「個」に関する情報を提供・交換し、「個」の理解を深めるとともに「いつ、どんな方法」で実施するかを検討した。

学年会を学校の日課表の中に位置づけ、時間と場を確保した。

学年会では単なる事務連絡に終始することなく、下記の点に留意して「個」に関する話し合いを行った。

- ・生徒の自己認知、自己受容、他者理解、他者受容の実態を把握する基礎調査をする

- ・互いに実践例を出し合い、優れた実践例を学び合うとともに、悩みについても話せるようにする

- ・個を理解する方法として「個性発見カード」を活用し、自己理解や相互理解を深めさせる

- ・学年会等では、学級名簿を持ち寄り、生徒一人一人の情報を交換する

- ・「個」の努力やよさが見られるときの賞賛やコメントの場を確保する

- ・生徒のプラス面の評価をし、賞賛と励ましに努める

- ・認知的側面に偏ることなく、情意的側面の評価を重視する。そこで、学年全体で学校行事をとおして「個の伸長」を試みる（事例2参照）

② 日常の学校生活における自己認知、自己受容、他者理解、他者受容についての基礎調査  
調査項目は15項目であったが、ここでは5項目について述べる。（2年生97名）

◎あなたは「学級のある個人のよいところ」を見いだせますか

見いだせない 44%，見いだせる 56%

◎見いだせると答えた人にお尋ねします。

「学級のある個人のよいところ」を見いだしたらどうしますか

その人に伝えない 6%，その人に伝える 17%，  
伝えないが自分もよい点を取り入れる 55%，  
伝えるし自分もよい点を取り入れる 22%

◎あなたは自分の長所が分かりますか

分からない 47%，分かる 53%

◎あなたは、友達に認められていると思いますか  
思わない 48%，思う 52%